

レイケアニュースレター Laycare

VOL.32

靴の記念日 3月15日

西村勝三翁が、明治3年（1870年）3月15日に築地・入船町で日本初の洋式の靴工場・製革工場「伊勢勝造靴場」を開設したことに由来する。

靴の記念日について

近代日本の文明開化の一拠点となった「築地居留地」は、明治初期の東京に忽然と現れた西洋の街でした。各国の外交官が行き交い、教会が建ち、多くのミッションスクールが誕生し、ここから新しい文明の息吹が東京中に広がって行きました。

今や私たちの生活必需品となった靴の製造も、この居留地設置と時を同じくして隣の町で始まりました。1870年（明治3年）3月15日千葉県佐倉の藩士西村勝三が大村益次郎から奨められ、日本で初めての西洋式の靴の工場を築地の入船町に創設したのです。

日本の靴の発展は軍隊から



江戸時代末期から、西洋式軍隊訓練がとりいれます。明治に入り練はますます盛んになります。しかし、その当時の服装は陣笠に洋服、白の兵児帯に大小を差し、鉄砲をかついで草鞋履きという、和洋折衷も甚だ不調和極まるものでした。

そこで兵制改革に最も熱心であった大村益次郎は、靴の必要を感じて、多量の靴を外国に注文します。さて横浜運上所に輸入された注文の靴を調べてみますと、一足として日本人の足に合うのが無かったのです。これに困った大村は、西村勝三という御用商人に命じて、国産靴工場を建てさせます。

日本で初めて靴を作った男 西村勝三

生年 天保7.12（1837） 没年： 明治40.1.31（1907）

明治時代の実業家。桜組製靴の創業者。江戸の下総国（千葉県）佐野藩（佐倉藩支藩）の藩邸で付家老平右衛門（芳郁）と楽子の3男として生まれる。幼名三平。兄は貴族院議員西村茂樹。16歳のとき長崎海軍伝習所生を志すが落選、脱藩。のち横浜で売込商として朱を密売、佃島の石川島人足寄場で2年3カ月の囚人生活を送る。慶応1（1865）年日本橋に銃砲店を開き、伊勢屋勝三と改名。旧幕臣として幕府側にしか銃を売らないことに大村益次郎が感銘、信頼を得たことが維新後の方向を決めさせました。

大人の学習Ⅱ

Lesson4

靴の話Ⅱ

木型を使った革靴づくり②

製 甲（せいこう）

製甲とは裁断された平面のパーツを立体的にミシンで組み立てることです。



裁断で抜いた革のパーツを縫い合わせるため厚みを、すき機と呼ばれる機械で薄くして縫いやすく調整します。
親子穴やトップラインの折り込みなどの作業は、ミシンをかける前の作業となります。



パズルのようなパーツを組み立てて縫製します。いわば靴の顔の部分、非常に細かな作業になり熟練した職人仕事となります。

使用しているミシンも靴専用の18種とよばれる特殊なものです。布などを縫うミシンのハンドルが右なのに対し、左にハンドルがついています。これは踵を始末するための構造です。腕ミシンといわれる丸い腕のような形の台の上を、ローラーが回り縫い進むことができます。



参考文献：社団法人日本皮革産業連合会

画像提供 康製甲所

株式会社レイケアセンター
〒541-0054 大阪市中央区南本町 4-2-10 本町永和ビル8階
06-6245-7441
東京レイケアセンター
〒163-0809 東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿 NS ビル9階東
03-6279-0840

レイケアニュース編集室
今月のレイケアニュースはいかがでしたでしょうか。
ご意見ご感想をお寄せ下さい。
「レイケアニュース編集室」
Info@laycare.co.jp